

武雄市を分析してみました



政策部 企画課
☎(23)9325 担当:吉野

平成18年3月の市町村合併から、本市は大きく変わりつつあります。

今回、客観的な統計資料をもとに武雄市がどのように変わってきているかの考察を行ってみました。

「データブック武雄市」として武雄市ホームページや企画課で閲覧できます。

評価項目は、全部で49項目です。どのよ

うな傾向にあるかを3段階で評価を行っています。上向きにある項目は、49項目中26項目(全体の53パーセント)となりました。

「データブック武雄市」の一部をご紹介します。



3段階の項目	マーク	49項目の結果	
活性化の傾向にある項目	😊	26	53%
現状に変化のない項目	😐	17	35%
活性化がみられない傾向にある項目	😞	6	12%

3段階の項目をそれぞれマークで表しています

出生数・市税・観光客は増加…

住みやすさの基礎の指標である人口については、減少率が鈍化しています。近隣の市などはそれぞれ一定の減少率を示していることからみると、明るい兆しと思われれます。

武雄市街地周辺に大型商業施設が進出し、収入源である固定資産税や法人市民税が増加しています。大型商業施設は、近隣市町からの買物客により交流人口の増加の傾向を推測できます。テレビドラマ「佐賀のがばいばちゃん」ロケ地誘致をきっかけとした「観光地

武雄」の様々な取組みは功を奏し、観光客の増加などの経済効果はもちろん「武雄市」の知名度アップや市民参加で取り組んだことによる地域づくりの盛り上がりにも効果が表れています。

行財政改革による経費削減効果は、市の予算の構成を大きく変えつつあります。人件費などの総務費は減少し、民生費などの市民生活に直結する経費は増加しています。子育て支援など未来への投資は、今後の武雄市の繁栄にかかせないものと考えています。

人口の推移

下段は前年対比

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	傾向
人口推移 (人)	51,744	51,082 ▲1.3	50,818 ▲0.5	50,481 ▲0.7	☹️
生産年齢人口(人) ・生産年齢人口比率	31,309 60.5	30,678 60.1 ▲2.0	30,319 59.7 ▲1.2	30,093 59.6 ▲0.8	☹️
高齢者人口 (人) ・高齢化率	12,325 23.8	12,514 24.5 0.7	12,653 24.9 0.4	12,744 25.2 0.3	☹️
出生数 (人) *出生率 人口1000対	477 9.5 山内7.3 北方10.0	425 8.8 山内7.5 北方7.0 ▲10.9	438 8.6	467 9.2	😊
転入者数 (人)	1,765	1,614 ▲8.6	1,667 3.3	1,739 4.3	😊
転出者数 (人)	2,070	1,849 ▲10.7	1,876 1.5	1,831 ▲2.4	😊

資料：佐賀県統計年度・市民課調べ

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	傾向
水道料金 (円) 日武雄市(月定額20)	5,953	5,953	5,953	4,830 ▲18.9	😊

市税の推移

下段は前年対比

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	傾向
市税 (円)	47億9千万	49億6千万 3.5	54億4千万 9.5	55億3千万 1.5	😊
個人住民税	12億3千万	13億4千万 8.4	17億 27.6	17億6千万 3.1	😊
法人市民税	4億8千万	4億8千万 ▲0.5	5億2千万 8.2	5億7千万 8.9	😊
固定資産税	25億8千万	26億3千万 1.9	26億7千万 1.5	27億 1.1	😊
軽自動車税	1億2千万	1億2千万 ▲4.9	1億3千万 3.0	1億3千万 0	😊
市たばこ税	3億5千万	3億6千万 3	3億9千万 6.7	3億4千万 ▲11.5	😊
入湯税	302.7万	308.1万 1.8	264.2万 ▲14.3	256.9万 ▲2.8	☹️

人口の推移と
住みやすさは？

高齢化率は鈍化し、出生数は増加しています。

さらなる人口対策には、雇用の確保や商業圏からのアクセスの向上など様々な手法により人口流出の抑制が必要です。

住みやすさの指標と言える人口は、減少率が鈍化しています。

また、高齢化率は、ほぼ横ばいとなり、出生数は2年連続で前年を上回っています。

市税の推移は？

雇用など居住に関する条件が整えば、今後は人口減少が止まり、増加することも期待ができません。

税源移譲や商業施設の立地などにより市税は増加の傾向です。

地方分権の推進による税源移譲や定率減税の廃止などで市民税は増加しています。しかし、地方譲与税などの削減もあるので歳入の純

観光客の傾向は？

増分については、大型商業施設が進出したことやアパルト・マンションの建設増による固定資産税と法人市民税の増加によるものとなっています。

日帰り観光客は増加し、市の観光には明るい兆しです。

今後は、特産品を活用した観光事業の展開とブランド化を進め、市の知名度をさらに向上させていくことが求められます。

今後の課題

全体的に見ると良好な傾向を示す項目が多いものの、憂慮すべき項目も存在します。観光客全体は伸びているものの、宿泊客は減少の傾向にあり、入湯税も減少の傾向にあります。

水道料金や固定資産税率の引き下げなど市民負担の軽減を果たし、今後も、ハード・ソフト事業を両輪のごとく取り組み、定住化と市の活力(市力)の向上をめざします。



観光客の傾向

下段は前年対比

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	傾向
ボランティアガイドの利用者数 (人)	1,069	2,384	26,937	59,121	😊
宿泊者数 (人)	32万	27万 ▲15.9	26万 ▲3.7	24万 ▲8	☹️
日帰り観光客数 (人)	135万	118万 ▲12.9	123万 4.8	137万 11	😊
観光消費 (円)	94億	103億 8.8	105億 1.8	90億 ▲14.1	😊
JR乗降者数(人) (武雄温泉駅)	52万	53万 1.3	53万 1.6		😊

また、楼門朝市は、宿泊客の呼び水になることが期待でき、滞在型の観光対策のため宿泊客に対するさらなる魅力的な事業展開が求められています。

日帰り観光客は増加の傾向にあり、武雄温泉駅での降車人数も増加しています。平成18年に行ったテレビドラマロケの誘致は観光PRに大きく貢献しました。

しかし、宿泊観光客の減少は歯止めがかからず、今後の課題となっています。